

## <ワイワイまつり>

会長 藤井久子

西神戸 YMCA (神戸 YMCA 学園都市ブランチ) で行われるチャリティーバザーが、10月22日(土) 10時30分開始で盛大に開催されました。当日に向けて、数か月前から計画・準備をして臨みました。

当 YMCA で活動されている人のフラダンス、キッズダンス、太極拳などの演技の発表が特設ステージで行われ、また会館内や駐車場では、高等学院生、ユースリーダー、保育園の保護者、ウェルネスセンターで活動されているメンバーなど約 20 の模擬店の出店がありました。



わがクラブは、毎年餅つきを担当しています。前日までに材料を購入したり、器具の準備・洗浄、もち米をとき、1日水につけて万全の状態に臨んだつもりだったのですが、当日コンロの調子がすぐれず、もち米



の蒸し上がりに時間がかかり、出来上がりをお待たせしてしまいました。また、メンバーの高齢化の影響もあり、ボランティアとしてつき手に 13 人、丸め手にも 5 人の方々に助けて頂きました。途中小雨がふりましたが、1000 名を超す来場者があり盛況の内にイベ

ントは無事終了することができました。

当日の収益金は、YMCA の地域の子育て支援、国際募金等に捧げられます。

## <チャリティーラン>

書記 杉本隆人

神戸 YMCA のチャリティーランが、今年も 11 月 3 日 (木) 文化の日の祝日に開催されました。日頃の行いが良いのか、雨の心配をしていたのが嘘のような快晴となりました。

ワイズメンズとしてもチャリティーランでは、全面的にサポートしている一大イベントとなっており、我がクラブでは、主に餅つきを担当しております。

以前は、ランナーとしても、参加しておりましたが、クラブ員の減少と高齢化もあって、ここ 4~5 年前くらいから走れなくなりましたが、もう一度、ランナーとして参加できるようにしたいものだと思っています。でも、我々の代わりに高等学院の生徒に走ってもらいました。現実にはきびしく、わがクラブも高齢化が進み、いつまで餅つきできるやろうかと、話す機会も多くなりました。

今回も多くの人に助けられて、40 キロのもちを昼過ぎには、完売することができましたが、毎回長い列ができてしまい、買えない人が出るほど人気を博しております。餅つき、丸めを応援していただいた皆様には、心より感謝を申し上げます。



チャリティーランの参加者も年々、少しずつ形態が変わってきており、多くの人に参加できるようになってきました。多様化に対処している若いリーダーやスタッフには、感心させられました。本当に誰一人怪我することもなく無事に終了できたことが素晴らしいです。スタッフの皆さん、朝早くから準備し、後片付けまで本当に御苦労さまでした。

## <第15回六甲部部会報告>

副会長 佐伯一丸

2016/2017年度の六甲部部会は11月12日(土)、12時30分～19時、ラッセホールで開かれた。



参加者は岩本西日本区理事を始め、西日本の各地から合計126名(部外者53名)にも上り、盛大な部会となった。我がクラブからは、阿部夫妻、佐伯、杉本次期六甲部長、舘、田辺、中村、野呂、檜木、藤井会長が参加した。

現在最も問題になっているのは、六甲部に限らず、「活動の活性化とメンバー増強」である。

各クラブの会長が活動報告をしたように、六甲部の8クラブは、それなりに活動はしているが、メンバーの増強には繋がっておらず、メンバーの減少かつ高齢化に見舞われている。

それを長井六甲部長が「六甲部の現状と将来」というテーマで現状分析をされた。

現在の各クラブの構成員の年齢(年代)を棒グラフにしたもので、現状は良いとしても、5年後、10年後を考えると、各クラブが存続している可能性が「ゼロ」に近くなっていることがよくわかった。漠然と分かっていたつもりであるが、グラフで示されると身につまされてしまう。

こうすれば、確実に効果あるというものがあればよいのだが、そんなものはない。とにかく日々の活動を工夫して楽しいものにし、みんなが参加してみたくなるような活動にする必要がある。若い人に参加してもらうためには、小さな子供さんのための活動を支援するのが良いのではという意見も出た。



改めて、クラブの活性化を図り、若い会員の増強に繋がないと、クラブは存続できないと痛感した次第である。

神戸YMCAから「青少年奉仕賞」が我がクラブの

舘 忠之氏と西宮クラブの山口政紀氏に送られた。

## <大自然と歴史の交響曲スロベニア>

クロアチアハイライト9(4/4) >

丹家元陽 メン

(前号よりの続き)



一周約2Km、高い所では25mある。入口は3ヶ所あり、そこでチケットを買う。今回東北にある聖ルカ要塞から入った。まず上に着くまでに50段位登る。上は左回りの一方通行になっていて、城壁の最高地点であるミンチェタ要塞までは、ずっと登り坂と階段の連続で、さすがに足に来る。

しかし、その苦勞も上から旧市街を見下ろすと報われる。きれいなオレンジ色の瓦屋根と白い壁の美しさが見事。しかし、良く見ていてオレンジ色の瓦の色が家々によって違う。2種類ある。多いのは明るいオレンジ色、そして、その間に所々あるのは、かなり年季の入ったオレンジ色。?アッそうか!ピレ門入口の壁に掛けられていたプレートを思い出した。戦争の時に着弾したミサイルと火災にあった家々の地図だ。明るいオレンジ色の瓦の家は、その後一生懸命、復興した家だったのだと納得。

歩き始めて約1時間。もうすぐ終わる頃に、すぐ北のスルジ山上空に黒い雲が湧くと同時に、ピカーッ!ゴロゴロ!これがしばらく続き、城壁から降りるとそこには花嫁と花婿の行列。又、結婚式に出合った。

そして、路地を散歩し、とある土産物店に入る。そこでクロアチアのネクタイ型の栓抜きとキーホルダーをゲット。店を出るとポツ!ポツ!と雨が急にザーッ。急いで近くのレストランの parasolの中へ。そこにはツアーのメンバーの先客が。夕食には間があるので渴いた喉にビールが浸み渡る。小一時間程で雨が上がるとスーッと吹き抜ける爽やかな風が心地いい。

やがて、ディナータイム。ガイドさんに案内されてぐるっと回って着いたのが同じレストランの室内テーブル。前菜は生ハム、チーズ、タコの燻製のオリーブ添え。勿論もう一度ビールを頼む。メインは2択で私は七面鳥のグリル、家内は白身魚のグリルを注文しシェア。デザートはアイスクリームを上に乗せたホットチョコレート。初めての組合せで大満足で、ホテルに帰る。さあ、明日は帰国。スーツケースを整理して、手荷物をチェック。ベランダに出ると心地良い夜景と波の音。そして空には北斗七星がくっきり。23℃。

2015年8月22日(土)

早朝からの稲妻と雷鳴で目が開く。外は雨。20℃。

クロアチアの最後、そして今回の旅最後の朝食時、外を見ると又、クルーズ船が入港して来る。そしてバスへ。飛行場までの途中で、ガイドさんお気に入りのビューポイントで一時停車。ここからは後にドブロヴニクの旧市街が遠くに見える。風が強く、15℃。約30分で岩山の高台にあるドブロヴニク空港着。チェックイン後は最後の仕事が残っている。いつもの事ですが、地元産のワインを今回は7本仕入れて、機内持ち込み用のスーツケースへ。本当はもっと入るのだが、これ以上入れると、機内の上のボックスに持ち上げられないので、諦めざるを得ない訳。

AM10:05 FINNAIR AY0182機は一路HELSINKIへ約3時間のフライト。PM2:05ヘルシンキ空港着。EU出国手続後のフリータイム。フィンランドの缶詰も仕入れる。PM5:30 AY0077はヘルシンキ空港を離陸。まず、グラス入りのシャンパンに、菊芋のディップと根菜のチップス。夕食が始まると前菜にガーデンサラダとカワカマスのテリーヌ魚卵添えに西洋ネギ入りのマッシュポテト or 七面

鳥のグリル、お米とトウモロコシのリゾット添えのチョイス。お腹も満足、ワインも満足で、ぐっすり眠る。

2015年8月23日(日)

目が開くと日本時間AM7:00。オムレツ、ハム、ヨーグルト、クロワッサン、果物のデザート朝食。その頃には日本海を南下し、中国地方、四国、淡路島をかすめて関空に無事着陸。お盆以降、雨が多すぎて暑さは少し緩んだとの後日談ですが、空港の外は相変わらず、ミンミンと騒々しい蝉の声で、帰国を実感。32℃。

さて、帰国後大量の郵便物の整理が残っている。でも時差ボケ対策が一番大事。サア、テニスに行こう。そして、次の夏までがんばるぞー。

今回も異国の文化、歴史、食事を楽しみ、非常に長くなってしまいました。最後までお付き合い頂き、本当にありがとうございます。さあ、皆さん、今のうちに日本の外に出ましょ。

## < 今月の聖句 >

### 耐えられないほどの試練に遭わせることはなさいません

あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはず。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。

(コリントの信徒への手紙一 10—13)

「あしあと」(Footprints)という英文の詩(マーガレット・F・パワーズ作)がある。その一節。『主よ。わたしがあなたに従うと決心したとき、あなたは、すべての道において、わたしとともに歩み、わたしと語り合ってくださいと約束されました。それなのに、わたしの人生のいちばんつらい時、ひとりのあしあとしかなかったのです。いちばんあなたを必要としたときに、あなたが、なぜ、わたしを捨てられたのか、わたしにはわかりません。』主は、ささやかれた。『わたしの大切な子よ。わたしは、あなたを愛している。あなたを決して捨てたりはしない。ましてや、苦しみや試みの時に。あしあとがひとつだったとき、わたしはあなたを背負って歩いていた。』(『あしあと』松代恵美訳)

「どんな逆境にあっても主は逃れる道を用意してくださっている。だから耐えられないほどの試練に遭うことはない」という言葉に重なる詩だ。

新島襄は「神は人の堪え得ざる程の困難に陥らざる内に、早くも手を出て<sup>だし</sup>之<sup>これ</sup>を助く」(『新島襄全集2』)と語っている。多大な困難があつたにもかかわらず見えざる手の導きを確信し、見えざる手の導きにゆだねて同志社を創設するに至った。その建学精神はキリスト教精神にもとづく「良心」とされた。

～『声に出して読みたい新約聖書』齋藤孝 著 草思社 より～